

通学区域見直し案作成の際の

前提となる考え方

藤沢市立学校適正規模・適正配置第1期実施計画 目指すこと

2040年時点で過大規模校と見込まれる学校のうち、
鵜沼小学校、六会小学校、辻堂小学校、鵜洋小学校、八松小学校
の
過大規模解消

現在と2040年推計では 過大規模校数に違いがある

現在(2024年)の

過大規模校

辻堂小学校
鵜洋小学校

2040年時点の

過大規模見込校

鵜沼小学校 鵜洋小学校
六会小学校 秋葉台小学校
辻堂小学校 八松小学校

現在(2024年)と2040年では異なる人口分布が想定される

現在(2024)小学校に通っている児童が住んでいる場所
に基づいて検討することは実施計画の目標達成になるか?

2040年時点の人口分布は作成可能か？

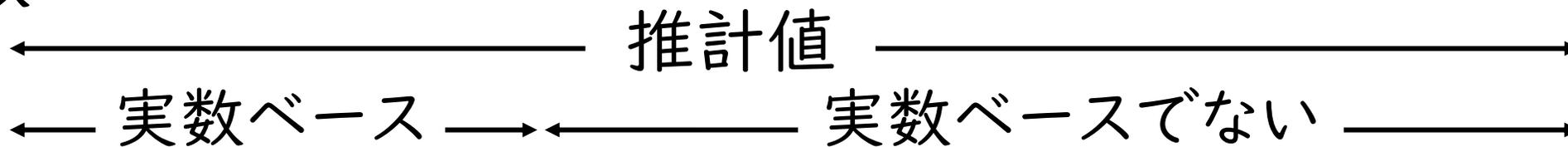
現在（2024年）から16年後である2040年時点の
小学生（6歳～11歳）はまだ生まれてきていない



2040年時点の人口分布の把握が不可能

第1期実施計画における推計の計算イメージ

実数

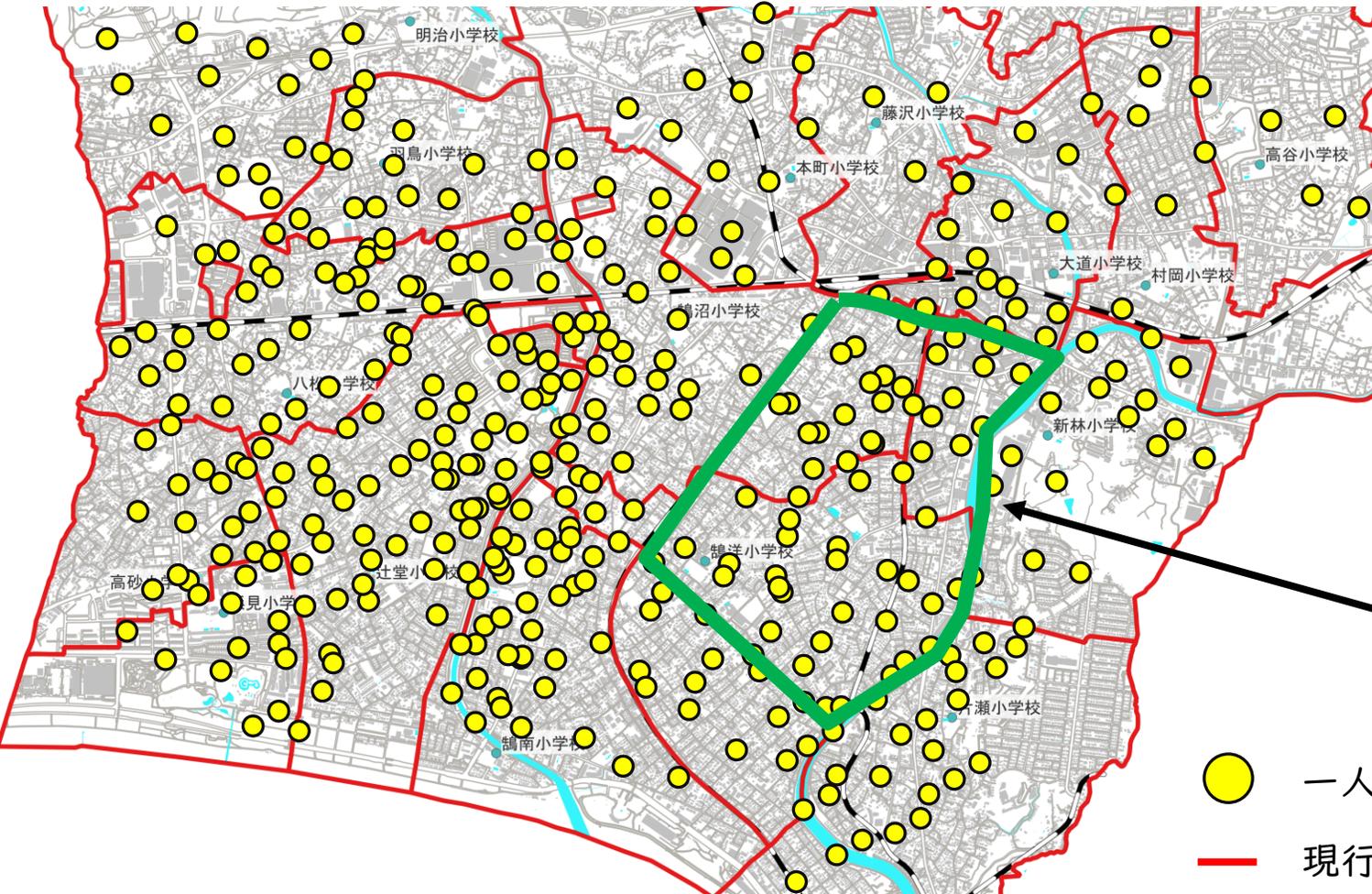


	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22
藤沢小	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	19	19	20	21	22	23	22
明治小	25	25	25	26	27	26	26	26	26	27	28	27	27	28	28	27	27	27	28
鵜沼小	28	29	30	29	28	27	26	25	24	27	28	29	31	33	34	35	36	36	36
本町小	26	26	25	25	25	23	22	21	20	19	18	18	20	20	22	23	24	24	24
村岡小	18	19	19	19	19	19	19	19	20	19	19	18	21	21	23	23	24	24	24
六会小	28	29	29	30	29	29	29	30	30	30	30	30	32	32	34	35	36	37	36
辻堂小	39	39	40	39	38	35	33	33	32	31	30	31	34	34	35	34	34	33	32
鵜洋小	35	37	39	39	41	41	42	43	41	41	40	40	39	38	37	36	37	36	36

⋮

人口分布の把握によって可能なこと

現在(2024年時点)の人口分布イメージ



住民票の情報に基づいて
位置情報を地図上に反映できる



新たな通学区域の子どもの
人数変化の把握が可能

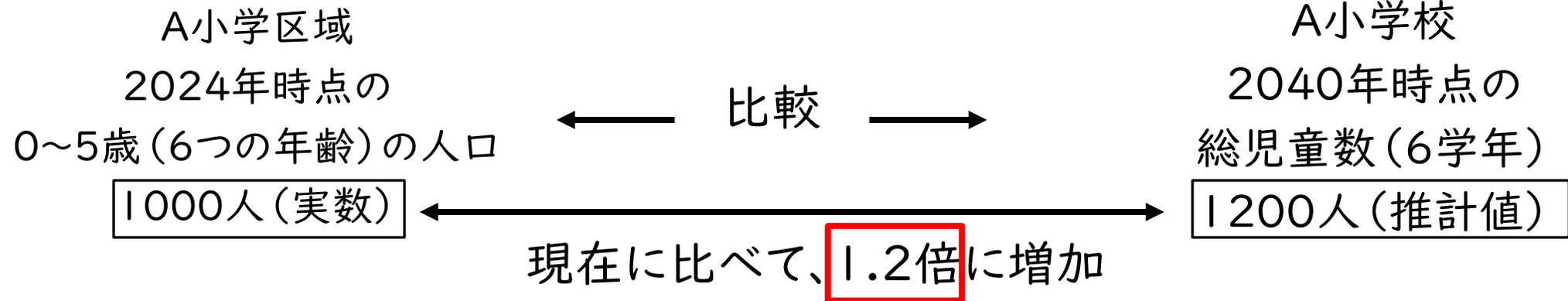
新たな通学区域の例
子どもの人数=●●人

● 一人ひとりの位置情報(ダミー)

— 現行の通学区域

現在の人口分布をベースに 2040年の人口分布を作成する

例



この増減率1.2という数値を、A小学区域の2024年時点の0~5歳の子ども一人ひとりに割り当てる

増減率を一人ひとりに割り当てたイメージ

A小学校

2024年 → 2040年
1000人 → 1200人

B小学校

2024年 → 2040年
1000人 → 800人

C小学校

2024年 → 2040年
1000人 → 1500人



この考え方を基に、過大規模校の児童数を減らす案を作成します